

神の奇しい御業

2023年6月25日

使徒の働き 27章27節～28章10節

序：ローマへの旅始まる

カイサリア ～ クレタ島（良い港） × クレタ島（フェニクス） ～～漂流
航海中止・待機 越冬を計画 ユーラクロン
パウロ警告 ↘ カウダ（小島）の陰
小舟を引き上げ
船具、積荷を捨てる
（暴風）

～ 地中海中央部アドリア海を漂流
助かる望みが完全に絶たれようという
絶望状態

パウロの戒め・激励

主にあって確信と希望を持つ／周囲の人々を鼓舞

☆元気を出せ

☆いのちを失う人は皆無（パウロと同船者すべてを主が救出）

☆主の言われたことはそのとおりに成就する（カエサルの前に立つ）

☆どこかの島に必ず打ち上げられる

囚人のパウロが指導者の役目を果たすようになっていく

I. 難船・漂流

(1)乗船者は276人（ユリウスという名の百人隊長、ローマの兵士たち、船主、船長と水夫たち、パウロとルカとアリストアルコ、ほかの数名の囚人）

(2)後悔、不安、死への恐怖、空腹、疲労

どこにいるか どこに行くのか、助かるかどうか、どのようにしてか？

(3)14日目の危機：陸地に近づいているのを知った水夫たちがほかの乗船者たちを見捨てて、自分たちだけ小舟に乗り込んで脱出をしようと図った

①錨をおろすふりをして、小舟を降ろしていたのをパウロが見破った

百人隊長やローマ兵に事態を告げ、逃亡阻止

②小舟の綱が切断され、離れて流れるままにされた

(4)嵐の中での食事

①パウロは食事を摂ることを勧めた（意外、適切、現実的な解決）

体力も気力も弱っていた彼らに、いのちは完璧に守られると宣言

②自ら率先して、パンを取り、感謝の祈りをしてから、裂いて食べ始めた

③それを見て、他の者たちも元気づけられ、十分食べた

(5)上陸する時が近づいたので、積荷の麦も海に投棄して、船を軽くした

(6)砂浜に乗り上げ失敗

①錨を切り、綱を解き。船首の帆を上げ砂浜に向かって進む

②浅瀬に乗り上げ、座礁。船は動けなくなってしかも壊れ始めた

(7)人為的危機

①兵士たちが囚人が逃亡しないよう殺そうとした

②指揮官の百人隊長がそれを制止（市民権を持ち、皇帝に上訴しているパウロを守る）⇒ほかの囚人たちも殺されずに済んだ

(8)泳げる者は泳いで上陸、泳げない者は浮かぶ板か何かにつかまって陸に上がる
全員無事に上陸

II. マルタ島で

- (1)カウダから900km西に漂流 目指すローマは近くなった
- (2)島の人達＝バルバロイ（未開人、ギリシャ語を話さない人たち）の親切
海水に濡れ、雨降りの中、寒さに奮える彼らに焚火をたいて迎え、もてなし
- (3)パウロがまむし（猛毒）に咬まれる
焚きつけの柴の中から這い出し、毒牙を手に掛ける
- (4)マルタ島の人々の反応
 - ①パウロは極悪人、まむしに噛まれて死ぬのは神罰
 - ②変わったことが起こったと思ったが、パウロには何も変化なし
 - ③今度はパウロを神に仕立て上げ、崇めた
- (5)島の長官プブリウスの歓待
- (6) ” の父の病（高熱と下痢）をいやすパウロ（by按手と祈り）
ほかの病人も癒しを受けた
- (7)私たち（医者ルカとパウロ）への深い尊敬と感謝（船出の際、必需品を揃え提供

III. 神の人パウロ

- (1)神と神の約束に対する信頼
 - ☆だれもいのちをなくさない（全員上陸）
 - ☆船や積荷は損失・破綻する（失われるのは船だけ）
 - ☆どこかの島に打ち上げられる（絶望の中の希望）
 - ☆必ずローマに行く（皇帝に上訴）
- (2)的確な判断と行動（奉仕）
 - ★人々への激励（望みが絶たれたかに見える時に） ×人間の頑張り
 - ★ほかの乗船者を置き去りにして、脱出を計った水夫たちを阻止（百人隊長）
 - ★食事を摂ることを勧め、自分から実行（現実的な対応）
 - 食べるにも飲むにも神の栄光を現す（感謝の祈りをささげて）
 - たましいに糧が必要、肉体にも生命・健康を保つ食物が必要
 - 物質的な必要を無視・軽視しない
 - ★マルタ島で焚火のためのたきつけをかいがいしく運ぶ（お客さん顔をしない）
 - ★病人の癒し（ほかの人の悩み・必要の解決）＝ 同労者の医者ルカと協力

IV. 神の導き

- (1)みことばを通して、信じる者にご計画を示される
 - (2)出来事や周囲の状況の中での発見や判断や行動を導かれる
 - (3)いろいろな人（人種・立場・地位・性質・思いは違う）を用いられる
 - (4)福音宣教の方法も対象によって、バラエティがある
マルタ島では医療伝道？
- それらをわきまえることができるようにしていただけるよう、祈ろう